

## Q4 預金の状況について教えてください

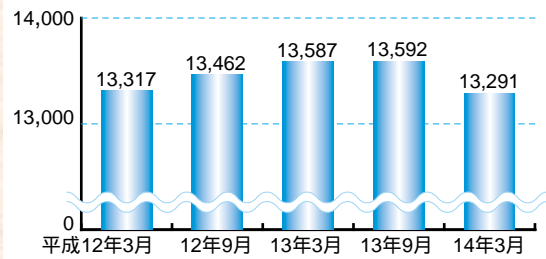
### A 個人部門は安定、法人部門は低調に推移

預金面では、定期性預金が減少しましたが、流動性預金は増加し、銀行勘定の期末残高は期中99億円増加して1兆2,220億円となりました。金銭信託は、低金利の継続等の要因から期中395億円減少の1,071億円となり、銀行・信託勘定合計残高では期中296億円減少して1兆3,291億円となりました。

部門別では、景気低迷の影響で、法人等の預金は減少しましたが、全体の約7割を占める個人部門は期中47億円の増加となり、安定して推移しました。

### 預金残高(末残)の推移

単位:億円



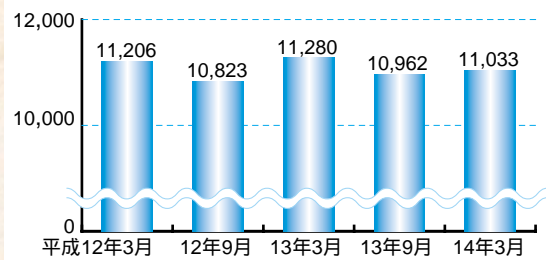
## Q5 貸出金の状況について教えてください

### A 消費性資金は好調なものの事業性資金は低調

融資面では、個人部門は住宅ローンを中心に伸び率が10.7%と引き続き九州・沖縄地区の地方銀行でトップとなり大幅に増加しましたが、米国同時多発テロの影響や景気低迷の長期化により事業性資金の需要が低下したことから、銀行勘定の期末残高は期中56億円減少し1兆2,600億円、信託貸付につきましては期中192億円減少して772億円となりました。銀行・信託勘定合計残高では期中247億円減少し1兆1,033億円となりました。

### 貸出残高(末残)の推移

単位:億円



## Q6 安心できる銀行は、どこを見ればわかりますか？

### A 自己資本比率や格付けをご覧ください

**自己資本比率**は、経営の安全性や健全性を図る指標の一つで、企業の利益や資本金などが資産(貸出金等)規模に対してどのくらい充実しているかを表しています。

りゅうぎんのように、海外に営業拠点を持たない銀行は、この比率が国内基準の4%を上回ることが要求されており、当行の自己資本比率は基準を大きく超える9.35%となっています。

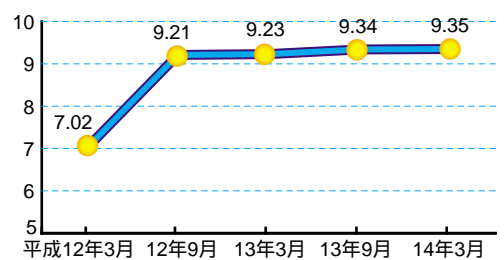
**格付け**は、企業が発行する債券などの元金および利息の支払いが、約定どおり履行される確実性の度合いを、公正な第三者である格付機関が評価し、その結果を記号で表したものです。

りゅうぎんは、日本の代表的な格付機関である日本格付研究所の格付けを取得しており、上位から3番目となる「A-」(シングルAマイナス)の良好な評価を得ています。

こうしたことから、皆さまにはりゅうぎんと安心してお取引いただけるものと確信しています。

### 自己資本比率(単体)の推移

単位:%



### 格付けの定義

長期格付記号	定義
AAA	債務履行の確実性が最も高い。
AA	債務履行の確実性は非常に高い。
A	債務履行の確実性は高い。
BBB	債務履行の確実性は認められるが、上位等級に比べて、将来、債務履行の確実性が低下する可能性がある。
BB	債務履行に当面問題はないが、将来まで確実であるとは言えない。
B	債務履行に乏しく、懸念される要素がある。
CCC	現在においても不安な要素があり、債務不履行に陥る危険性がある。
CC	債務不履行に陥る危険性が高い。
C	債務不履行に陥る危険性が極めて高い。
D	債務不履行に陥っている。

AAからBまでの格付け記号には同一等級内での相対的位置を示すものとして、プラス(+ )/もしくは( - )の符号による区分があります。



りゅうぎんの  
自己資本比率は9.35%  
格付けは「A-」  
これなら安心だね!